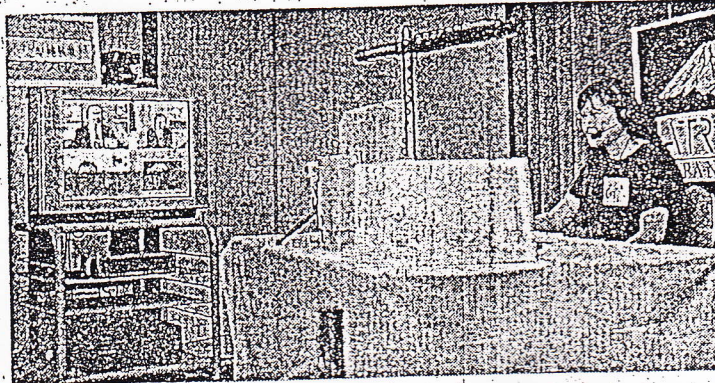


THE SANKEI SHINBUN 1999.07.23

-Conversation Connecting Japan, US, Germany, and Korea
-Multilingual Translation System Joint Experiment
in the Kansai Science Park

米、独、韓国と結び「会話」

四カ国語学研都市で共同実験 翻訳システム



日本、米、独、韓国、ドイツを結んで
行われた自動翻訳の国際共同実験
精華町のけいはんなプラザ

コンピュータが四カ国語をリアルタイムで自動翻訳するシステムの国際共同実験が二十二日、関西文化学術研究都市のけいはんなプラザ（精華町）と米、独、韓国とを結んで行われた。各国間をテレビ画面でつなぎ、オペレーターが時間や天気などについての「会話」を楽しんだ。このシステムは、音声を認識し、翻訳、さらに合成することによって、外国語を本国語に翻訳するもので、会話の微妙な言い回しも表現できるのが特徴。関西文化学術研究都市のA.T.R.音声翻訳通信研究所が開発した。

この日の実験は、同様の研究を進めている米、独、ドイツ、フランス、韓国、大田の韓国電子通信研究所、ドイツ・カールスルーエのカールスルーエ大学とを高速デジタル回線で結んで行われた。実験は、会話形式で行われ、日本のオペレーターが「アメリカは今何時ですか」と尋ねると、テレビ画像に映し出された米国会場の男性が英語で返答し、「こちらはゼロ時です」と合成された日本語音声が会場に流れた。この間、わずか数秒。同様のやりとりが他の二カ国とも行われ、「夢の翻訳機」の性能に会場の研究者らから拍手が起った。

日本語と英語の二カ国語間で行われた、ホテルの予約をする会話では「ワールドシリーズが見たいので、その近くがいいんですけど」といった微妙な表現も翻訳。同研究所は「込み入った会話やデイスカッションなどへ発展する可能性が見えてきたのではないかと成功に満足していた。